

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月31日

学) 萩原学園 鶴川若竹幼稚園

1. 本園の教育目標

心身の健康を基本とし、知育・徳育・体育の三つを柱としてバランスのとれた人間育成を目指す。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・体を鍛えることで、諦めない心と自信を育てる。
- ・全員が前跳び、後ろ跳び、逆上がりができる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼稚園は、体力に向上のための適切な指導をしている。	A 80% B 20% C 0% D 0% E 0%	・週1回の体育指導で、体育講師からの指導 ・毎日の保育の中で、保育者と一緒に取り組む
2	幼稚園は、体力の向上に取り組んだ成果の発表の機会を工夫して行っている。	A 70% B 30% C 0% D 0% E 0%	・体操発表会（年長児）の実施
3	幼稚園は、保護者に情報発信している。	A 80% B 20% C 0% D 0% E 0%	・園だより、クラスだより等で子ども達の成長を伝えている
4	幼稚園は、保護者に教育活動を公開している。	A 60% B 40% C 0% D 0% E 0%	・行事や保育参観を通して、子どもの活動や成果を見てもらっている
5	幼稚園は、安全に配慮し怪我や事故について適切に対応	A 70% B 20% C 10% D 0% E 0%	・鉄棒の下にグリーンマットを敷いている

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	令和3年度：年長児120名中、逆上がり：100%、前跳び100回：100%、後ろ跳び100回：97.5%と結果はすべてが100%ではなかったが、体育指導だけに頼らず、日々の努力があったと言える。その目標を最後まで諦めずに目指す姿勢が「諦めない心」「できたという自信」「もっとやりたい」というところまで導くことができた、という点において評価できる。しかし100%を目指す、という意味では更に努力が必要と言える。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保護者に対して教育活動を公開する必要がある。	・動画配信を増やす。 ・保育参観の場を設ける。
2	安全への配慮	・大きな怪我はなかったものの、必ず保育者の目の届くところで練習をする等、引き続き怪我の予防に対する保育者の意識を高める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

開園当初から変わらない教育、地域の方々からは若竹は体育に力を入れている幼稚園とされている。長年の取り組みは、毎年一定の成果を出している。100%達成することが素晴らしいのではなく、そこを目指す過程に学びがある。その意味を先生、職員の皆が理解して取り組むことで、更に教育としての深まりが出ると思われる。今後も変わらぬ姿勢で続けて欲しいと思う。